

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 29 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593151

研究課題名(和文) 障害者の生涯にわたる口腔のQOL向上を目的とした地域連携クリニカル・パス運用

研究課題名(英文) Community-liaison Clinical Pathways to Improve the Oral Health-related QOL of Individuals with Disabilities

研究代表者

江草 正彦 (Egusa, Masahiko)

岡山大学・大学病院・教授

研究者番号：90243485

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、地域の障害者の歯科的支援を生涯にわたってサポートするための、地域連携パスの効率的な運用システムの構築を行なうことである。地域医療連携のスムーズ運用には、地域の一次医療機関の協力が不可欠になってくる。そのため、障害者のニーズに対応できる医療関係者への教育・育成・啓発支援をおこなうための障害者歯科に関するセミナー・臨床実習をおこないスムーズな運用のためのシステムを構築した。

研究成果の概要(英文)：We have been engaged in the development and application of community-liaison clinical pathways (path) to support the provision of optimal dental services at minimum cost to individuals with disabilities. For the development of community-based medicine, liaison between community-based dental service providers and advanced medical institutions may be necessary. In order to enable patients to visit nearby facilities for treatment, and smoothly refer them to other institutions, it may be particularly important to increase the number of dental service providers who can competently treat individuals with disabilities. Holding seminars on dentistry to treat individuals with disabilities for those engaged in dental services in the community to enhance their knowledge of disabilities and the role of community-liaison clinical pathways may be an initial step toward it.

研究分野：障害者歯科学

キーワード：障害者 地域医療連携 クリニカルパス 口腔のQOL

1. 研究開始当初の背景

1) わが国における障害者歯科医療機関の現状と受診に関する問題点

わが国における障害者歯科医療は、歯科医師会主宰の口腔保健センター等(第2次医療機関)を中心として、地域に密着した一般歯科開業医(第1次医療機関)や麻酔管理など高度な医療を提供する大学病院(第3次医療機関)などが、それぞれの機能に応じて、障害者の歯科治療を行ってきた。行動療法や麻酔技術の向上などによって、障害者が受ける歯科治療の質は確実に向上していると思われる。しかし現在においても重度の障害者を受け入れることの出来る一般開業医は限られており、大学病院や口腔保健センターなどの高次歯科医療機関は、その多くが都市部に偏在している。したがって、通院に関して様々な制約を有することが多い障害者にとって、住居の近くに受診に適した歯科医療機関がない場合、通院は大きな負担となっている。また、障害者が各歯科医療機関に関する情報を入手する手段は限られており、各医療機関相互の情報交換の手段も限られているのが現状である。そのため障害者側では、障害者に対応した歯科医療機関を見つけることが困難である、受診しても障害の程度や口腔症状に対応してもらえないなどが推測される。

2) 障害者の生涯にわたる QOL 向上を支援するために

医療に対する社会の期待は、従来のキュア(治療)主体の医療からケア(疾患予防)、キュア, リハビリテーション(機能回復)三位一体となった QOL 向上のための支援を行うことへと拡大している。ノーマライゼーションの観点から障害者歯科においても同様に患者が、ケア, キュアおよびリハビリテーション, いずれの受診目的でも、必要に応じた歯科医療機関をスムーズに受診できるよう

にする必要がある。すなわち障害を有する患者が最小の負担で、最適な治療を受けられるよう支援する手段が必要と考えられる。

2. 研究の目的

本研究者は平成 21~23 年度は「障害者の生涯にわたる口腔の QOL 向上を目的とした地域連携クリニカル・パス開発」の研究を行っているが、障害者のニーズにあった医療連携を行うには医療関係者の教育・育成・啓蒙が必要不可欠となってくる。そこで、本研究では地域で障害者の口腔の向上に寄与できる、教育・人材育成・啓蒙システムの構築をおこなうことを目的とする。

3. 研究の方法

- 1)平成 21~23 年度に作成したクリニカル・パスをさらに障害者のニーズに合うように改良作成する。
- 2)障害者のニーズに対応できる地域の医療関係者の教育・育成・啓蒙を支援するためのシステムを構築する。
- 3)クリニカル・パス運用を開始後、成果および問題点について解析し、クリニカル・パスの改良と教育・育成・支援システムを再構築する。

平成 24 年度 地域連携クリニカル・パスの作成・改良

- 1)研究を開始するにあたり、内容および方法の妥当性について、本学倫理委員会に承認を求め。
- 2)岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センターにおいて、クリニカル・パスの素案を作成する。
- 3)歯科医療関係者、保健行政、福祉・介護関係者をメンバーとする連絡協議会を設置する。素案をたたき台に地域連携クリニカル・パスを作成・改良する。また患者および関係者に周知する方法についても協議する。IT ベースでの情報提供・共有の方策について検討および実施を行う。

平成 25 年度 クリニカル・パス運用のための、地域医療連携となる医療関係者への教育・育成・啓発支援システムの構築

- 1) クリニカル・パス運用にあたり、障害者のニーズに対応できる医療関係者への教育・育成・啓蒙支援システムの構築を行い、運営について協議、実施を行う。
- 2) クリニカル・パスの運用について、平成 25 年度に国内外の関係学会で発表および論文投稿を行う。

平成 26 年度 クリニカル・パス運用に関する総括

- 1) クリニカル・パス運用を開始後、成果および問題点について解析し、協議会による評価を受けクリニカル・パスおよび運用システムについて改善する。
- 2) クリニカル・パス運用の成果および問題点について、国内外の関係学会にて発表および論文投稿を行う。

4. 研究成果

平成 24 年度は、本研究について本学倫理委員会に承認を得た。クリニカル・パスの素案を作成し、患者および関係者に周知する方法についても協議をおこなった。また IT ベースでの情報提供・共有の方策について検討および実施をおこなった。

平成 25 年度はクリニカル・パス運用にあたり、障害者のニーズに対応できる医療関係者への教育・育成・啓発支援システムの構築を行い、運営について協議、実施をおこなった。また、主任研究者が実際に地域医療連携をとり、診療をおこなっている倉敷歯科医師会センターでの、一次受け入れ先となる歯科医療関係者への教育・育成についての検討をおこなった。まず倉敷の歯科医療関係者への障害者歯科に関するセミナー、および実際の患者による臨床実習をおこなった。診療をビデオ撮影し、そのごビデオによるディスカッショ

ンをおこない、参加者にアンケートをとった。平成 26 年度も医療関係者への教育・育成・啓発支援システムとなるトレーニングセミナー（以下「トレセミ」）を実施した。

トレセミに対する参加者の評価は、歯科医師会にとって重要で、個人にとっても価値のあるもので、内容も満足であったという回答が多かった。またこの事業は障害のある方や、その家族のためになり、今後もこの事業は続けた方がよいという回答が多かった。

今後、積極的に障害者歯科診療を行いたいかという問いには、ほとんどが肯定的な回答であった。

将来、障害者歯科学会の認定医を取得したいかという問いには半数以上が肯定的な回答であった。以上よりトレセミに対する関心の高さが推察され、また参加者からは、非常に高い評価を得られた。

以上の結果を国内外の学会で発表し、障害者歯科における地域連携クリニカル・パスをスムーズに運用するために、受け入れ先の医療関係者に対する、教育・育成・啓発支援システムを確立した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 14 件)

1. 大学病院スペシャルニーズ歯科センターにおける地域歯科との関わり

田尻 絢子、森 貴幸、江草 正彦 村田尚道、前川 享子、野島 靖子、神田 ゆう子、小林 幸生、細坪 充裕、東倫子、孫田 哲郎、角谷 真一、上原進、宮脇 卓也：

障害者歯科、有、36 巻 2 号印刷中、2015

2. 特別支援学校における歯科保健向上のための学校歯科医への支援ネットワークプログラム作成（特別支援学校歯科検診のサポートシステム構築のための基礎調査）、江草 正彦、森 貴幸、緒方 克也、

- 白川 哲夫、向井 美恵：障害者歯科、有、35 巻 2 号、130-143、2014.
3. 大学病院スペシャルニーズ歯科におけるインシデント発生状況と転倒・転落事故防止への取り組みに関する報告、住吉 由季子、森 貴幸、江草 正彦、宮脇 卓也：障害者歯科、有 35 巻 2 号、180-187、2014.
 4. 自閉症スペクトラム障害児・者の前歯部対咬関係の実態について、森 貴幸、江草 正彦、障害者歯科、有、35 巻 2 号、173-179、2014.
 5. Anti-ageing effects of dentifrices containing anti-oxidative, anti-inflammatory, and anti-bacterial agents (Tomarina®) on gingival collagen degradation in rats.Koichiro I, Morita M., Arch Oral Biol. 有、59(1):60-65.2014.
 6. Low bone mass is a risk factor in periodontal disease-related tooth loss in patients with intellectual disability.Numoto Y, Mori T, Egusa M, Miyawaki T., Open Dent J. Nov 29;7:157-61. 有、2013.
 7. TEACCH の理論の歯科医療への応用、江草 正彦、岡山歯学会雑誌、有、32 巻 2 号、31-41、2013.12.
 8. 障害児における摂食・嚥下機能の発達段階と全身状態との関連について、村田 尚道、江草 正彦、障害者歯科、有、34 巻 4 号、609-615、2013.
 9. クリニカルパスを利用した、知的障害者および発達障害者の診療計画の設定と実行に関する検討、森 貴幸、江草 正彦、障害者歯科、有、34 巻 4 号、597-608、2013.
 10. 重症心身障害者の横地分類と摂食・嚥下機能との関連性について、神田 ゆう子、江草 正彦、宮脇卓也：日本重症心身障害学会誌、有、38 巻 3 号、487-493、2013.
 11. カプサイシン含有フィルム摂取による嚥下反射促進効果、後藤 拓朗、江草 正彦、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会

雑誌、有、17 巻 3、209-216、2013.

12.Occlusion and weight change in a patient after esophagectomy: success derived from restoration of occlusal support.Yamanaka R, Morita M. Int J Prosthodont. 有、Nov-Dec;26(6):574-6.2013.

13.Midazolam is associated with delay in recovery and agitation after ambulatory general anesthesia for dental treatment in patients with disabilities: a retrospective cohort study.Maeda S, Egusa M, Miyawaki T. J Oral Maxillofac Surg. 有、70(6):1315-20. 2012 .

14.障害者の生涯にわたる口腔の QOL 向上を目的とした地域連携クリニカルパスの開発、江草 正彦、森 貴幸、岡山歯学会雑誌、有、31 巻 1 号、1-13、2012.

〔学会発表〕(計 7 件)

- 1.Community-liaison Clinical Pathways to Improve the Oral Health-related QOL of Individuals with Disabilities. Egusa M, Mori T, Miyawaki T ,22nd IADHcongress,october2-4,2014 Berlin, Germany.
2. 大学病院スペシャルニーズ歯科センターにおける地域歯科との関わり、田尻 絢子、森 貴幸、江草 正彦、村田 尚道、前川 享子、野島 靖子、神田 ゆう子、小林 幸生¹、細坪 充裕、東 倫子、孫田 哲郎、角谷 真一、上原 進、宮脇 卓也：第 31 回日本障害者歯科学会、2014.11.14-16.宮城県.
3. 某歯科医師会における障害者歯科診療トレーニング・セミナーへの取り組み 地域医療連携のために、江草 正彦、森 貴幸、村田 尚道、前川 享子、兵頭 誠治、上村 勝人、大森 潤、小川 えり、奥野 正典、佐伯 正則、丹治 義之、橋本 真治、船曳 洋司、丸石 亨、森 慎吾、近藤 康弘、柴田 恵子、戸田 貴美子、伊藤 政之、上原 進：第 31 回日本障害者歯科学会、2014.11.14-16.宮城県.

4. スペシャルニーズ歯科患者におけるてんかん有病者の実態についてのアンケート調査、森 貴幸、江草 正彦、第 31 回日本障害者歯科学会、2014.11.14-16.宮城県。
5. 発達障害者への歯科治療におけるタブレット型視覚支援機器の取り組み：細坪 充裕、江草 正彦、金子 訓隆、森 貴幸、宮脇 卓也：第 31 回日本障害者歯科学会、2014.11.14-16.宮城県。
6. 当歯科衛生センターにおける最近 6 年間の障がい者歯科診療の実態調査：森 慎吾、佐伯 正則、上村 勝人、森 貴幸、江草 正彦：第 31 回日本障害者歯科学会、2014.11.14-16.宮城県。
7. 自閉症スペクトラム障害への対応、江草 正彦：第 52 回日本小児歯科学会、2014.5.16-17. 東京

〔図書〕(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

<https://posgra.dent.okayama-u.ac.jp/nik/onikodental/index.html>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

江草 正彦 (Egusa Masahiko)
岡山大学・大学病院・教授
研究者番号：90243485

(2)研究分担者

森田 学 (Morita Manabu)
岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科・教授
研究者番号：40157904

(3)研究分担者

森 貴幸 (Mori Takayuki)
岡山大学・大学病院・助教
研究者番号：90274000